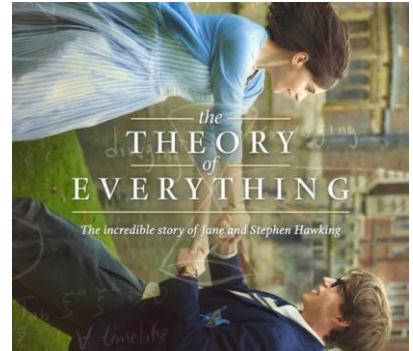


人は、人生が公平ではないことを悟れるくらいに成長しなくてはならない。そしてただ、自分の置かれた状況のなかで最善をつくすべきだ

——スティーブン・ホーキング※

※Stephen William Hawking(1942~)...死に至る難病、筋萎縮性側索硬化症を患いながらも革新的理論を発表し続け、現代宇宙論に多大な影響を与えている「車いすの天才物理学者」。上の写真は2014年に公開された、ホーキング博士の伝記映画。邦題は『博士と彼女のセオリー』、原題は“the THEORY of EVERYTHING”。THEORY of EVERYTHINGとは、すべての力を統一した理論、万物の理論ということで、物理学の世界の言葉らしい。原題の方がアンビギュアス(多義的)でいいですね。



## ◆学校説明会報告

**【狭山ヶ丘高校】**西武池袋線武蔵藤沢駅から徒歩13分の共学校です。遠いイメージですが、志木駅から電車で1時間もかからず着きます。また川越駅から無料のスクールバスが出ているので、どちらにせよ、それほど遠くはありません▼埼玉県私立のトップ2、栄東と開智に追いつき追いつくことを目標とし、平成25年に附属中学校を開設し、高校のⅣ類を廃止し、Ⅰ類からⅢ類までとしました▼中学入試は「6割得点できない生徒は取らない」「今後の中入生は高入生と混ざらず完全に6年一貫教育とする」など、中学入試で入った生徒に期待をかけている印象を受けました▼実績は国公立33名、早慶上智24名(重複あり)ですから、特に良いということもありません。難関大学に受かるのは最上位コースのⅠ類(併願偏差値68)の生徒ですから、それなら川越、川女など上位の県立、あるいは西武文理や淑徳など近場の私立の方が魅力的だと感じる人が多いのではないのでしょうか。しかしそれらの学校の合格基準に達しない場合、狭山ヶ丘のⅢ類(偏差値61)を選択肢に入れるのも良いかもしれません。(入部)

**【明大中野八王子高校】**八王子にある明治大学の付属校。共学校です▼まず、立地が最高です。2つの自然公園にはさまれた深い森の中のキャンパスは、学びの場所として理想的という印象を受けます。スタンド付きの野球場、人工芝のグラウンド、25mと50mの2つのプール、テニスコートが3面に、武道館……。設備も実に充実しています。校舎のつくりもゆったりとしており、都心の学校でときどき見る、せまっつい箱のような感覚はまったくありません。校長先生も「森」先生ということで、キャッチコピー“Grow up in the forest”はぴったりです▼しかし、裏返しに、最寄り駅が非常に遠く、通学の問題が無視できません。北朝霞から通うとすると、西国分寺で乗り替えて、40分かけて八王子駅。そこからバスの乗り場まで歩いて8分。さらにバスで学校まで20分。70分程度はかかります。高校の在校生937人中、朝霞・志木・新座から通う生徒は17人。通学圏内ギリギリです。通学の負担については慎重な検討を要します▼明中八王子は明大の付属校ですが、直系の付属ではなく、全員進学が保証されているわけではありません。去年、明大進学の権利が与えられたのは全生徒の86%です。それでも昔よりはだいぶ上がっています。去年は卒業生全体の80%が明大に進学、15%が他の四大に進学しました。付属校

として考えると、6人に1人が上がれないというのは少々もやっとするラインですが、現役四大進学率95%というのは進学校として考えるとまったく悪くない数字です。逆に、全員がエスカレーター式に上がれるような付属校は、えてして緊張感がなくなって生徒が勉強しなくなりますから、個人的には、このぐらいがいい塩梅だと思います▼校則はかなり厳し目なようです。ケータイ禁止、バイト禁止など、普通に思いつく「厳しい校則」はだいたい揃っています。男子は髪が耳にかかるのもダメ。個人的には、登下校時にコンビニに寄るのもダメというのは、まあネットの書き込みによれば実際はほとんど守られていないようですが、なかなか厳しいなと思いました▼第一志望の受験生は、一般入試での優遇があるので、推薦入試から受けるべきです。推薦入試では国数英の3科目の合計300点満点に、中3の内申点を8倍して加算するので、内申がかなり重要です。内申40以下で推薦入試の合格率は50%を切り、内申38以下での合格率は12%ほどしかありません▼すばらしいキャンパスに、付属校の魅力が詰まったいい学校です。説明会で先生が「進路と進学は違う」とおっしゃっていたのが印象的でした。大学合格のみに汲々とせず、社会に貢献する自分の未来を長い目で考えることができる学校だと思います。おすすめです。(角)

**【自由学園】**西武池袋線ひばりヶ丘駅から徒歩8分。1921(大正10)年、ジャーナリストでクリスチャンでもあった羽仁もと子・吉一夫妻が、知識を詰め込むことに重点を置くような当時の教育制度に疑問を感じて創立した学園です。東京ドーム8個分の広大な敷地の中に、初等部・中等科・高等科・最高学部(大学部)があります。校舎は木造、食堂や講堂は東京都歴史的建造物に認定されています。中等科と高等科は男子部・女子部の別学です。最高学部は高等科を修了した人だけが進学できる自由学園の一貫教育の最終課程です。男子部からは6割、女子部からは4割が最高学部へ内部進学します。残りは外部進学で、GMARCH以上の大学に行く人もいれば専門学校に行く人もいます。最高学部では人文科学・社会科学・自然科学をバランスよく(一般教養のみ)を勉強します。専門を学びたい人は大学院に進学します。最高学部から大学院への進学率は28.5%です(全国平均11%)。ただし、最高学部は文科省の認可を受けていませんので、一般的な大学ではありません▼男子の7割、女子の5割が寮生活を送っています。男子は、新入生は全員1年間寮に入ります。2年生以上は、地方生はそのまま寮生活をつづけ、近郊の入寮希望者は人数に余裕があれば入寮できます。女子の場合も希望者は人数に余裕があるとき入寮できます▼管理されることの多い中学生は「自由」に憧れます。そんな「自由」に惹かれて県立高校なら浦和西や所沢を希望する人もいます。しかし自由学園の自由はそれとは違うような気がします。それは責任のともなう自由、本当の意味での自由に近いのかもしれません。自分たちでやらなければ自由学園では何も物事が進みません。入学して最初に行くこと、それはなんと、自分が勉強するための机をつくることです。学園内のルールは自分たちで決めます。チャイムはなく、生徒たちが当番で「板木」をたたいて授業の開始を知らせます。清掃はもちろん、蛍光灯をかえるといった細々としたことまで自分たちでやります。食事も自分たちで作ります。学園内の森林の枯れ木を薪にしてご飯を炊き、学園内にある畑で収穫した野菜を使います。ここまでいくと「自給自足」といった感じがしてきます。何かあっても生き抜いていけそうです▼教科横断的な取り組みも行われています。たとえば、動物行動学者の文章「被害を与えぬもの——アクアリウム」を読んで実際にアクアリウム(水槽)をつくって実証してみます。このように実物や体験を伴う知識を大切にしています。昨今「アクティブラーニング」が注目されていますが、自由学園では100年前から実践していたようです▼高校入試の推薦基準は、男子部は単願9科30、併願は32、女子部は単願9科32、併願は34です。自由学園の理念から9科のみの内申となっています。大学進学実績をみて判断する学校ではありません。現在の学校というものに疑問を感じている人、従来の価値観から自由になれる人にはお勧めだと思います。どのような社会になっても生き抜いていく力はつきそうです。(加藤)

## ◆ 行事予定

□ 9/3 中3北辰テスト

□ 9/4 2学期授業開始

□ 10/1 第5回中3北辰テスト(9/4-9に受験料4600円を持ってきてください。今回の偏差値も入試相談会の貴重な資料となりますので必ず全員が受験してください)【編集/加藤】